

永泉寺開山麒麟山馨麟大和尚が江花村からの帰りに通りかかったら、「寝だか、寝だか」と呼びかけられた。和尚一首の偈を詠んだ。「汝是縷々一箇身、能依虚実魅愚人、天通千歳豈非狐、報徳讐怨勝以神」とほめるとさすがの狐も本性をあらわし、尻尾を巻き、首を垂れて和尚を拝したという。

(「長沼名義考」より)

## 家老内山の箒栖大蛇

《長沼》

家老内山または、風越山ともいう。

昔、この山に大きな檜の古木があった。神代の頃より育った木で、直径二丈(約六・五メートル)高さ三丈(約一〇メートル)余り、さながら箒を逆にした形に似ているので箒檜と呼ぶようになった。この木もいつしか衰えて樹の中心が朽ちて、箒の技間に一つの穴ができた。この穴にいつ頃よりか大蛇が住み、家老内山の上の池に時々水呑みに出たという。

家老内山



この山に行つて大蛇を見た村人の中には、大病となつて死ぬ者が出たという。この病を俗に「モツケ病」といった。